

ブリスベンに行ってきました——。

起立、礼、着席！

まばたきも出来ないスピードで、電子黒板に数字が飛び出すと、子供たちは、いっせいにハイハイハイ！と手を上げて、暗算した答えを競い合う。昔、経験したことのある日本の小学校のような光景である。

ここは、オーストラリアの「バイリンガルスクール」。

全ての教科を、50%英語、50%日本語で行っている。

生徒は白人系オーストラリアの子供達。

「インディペンデント パブリック スクール」

聞きなれないタイトルだ。

つまり、公立の小学校だが、文部省から独立しているのだ？！

普通の政府認可校で教師は当然のごとく

教員免許のある「公務員」ということになる。

しかし、押し付けられた教科書はない！！

教員達が独自につくり出したオリジナルな教科書を使用。

保護者は、この学校に入れたくて他の州からも引っ越してくる。

そのため、当地の地価が10%以上値上がりして、経済効果も大きい。

100%税金で運営されているが、

全国の学力テストでも、英語だけで教えている他の公立校に負けていない。

だから政府は止めさせる訳にはいかない。

日本の教育委員会からの見学が相次いでいる。

「東京都」の教育委員会が訪れ、腰をぬかして帰っていった。

3年後には全校1000人の生徒全員が、

日本語と英語のバイリンガル教育を受ける。現在は300名が受講中。

最初の卒業生を送り出す時、

「今日の日はさようなら」を立派に歌って卒業していく姿を見て下さいーと、3年後の招待状をいただいた！

この学校には現在、ジョン・ウェブスター校長のもとに3人の教頭がいて、バイリンガル担当の教頭は橋本琢先生。

教員ファミリーの血を受け継ぐ橋本先生はネクタイをしめた、地味な背広姿で、ソロバンを教えたりもしている。

橋本先生からもっと話が聞きたくて、忙しいのに土曜日に呼び出したら飛んできてくれた。ふと、後ろ姿を見ると・・・

原宿を歩いている若者と同じ、ルーズな腰パンだった！



<https://wellhillss.eq.edu.au/Pages/default.aspx>

ジョン校長が、ある日この若き橋本教頭に言った。
それでも、僕たちが死んだら、
このプロジェクトも終わってしまうかもしれないよネ？
生きてるうちに、
「ジャパン ランゲージ センター」を建設しよう！！
鯉のぼりがはためく、
「ジャパン ランゲージ センター」の見取り図は、すでに出来上がっていた。
夢は、まず「絵」を描くことが大切だという話を思い出した。



〈解説と考察〉

ニヶ国語で教えると、どちらも中途半端なセ・ミ・リ・ン・ガ・ルになる——
という説は実はウソだった。
ニヶ国語教育は、脳科学的考察でも子供達の「IQ」、「EQ」ともに高くなる！！
学習脳が活性化するらしい。
この学校でオーストラリアの子供達は、
日本語はゼロからスタートしているのに、3年生の日本語力はスゴイ！
日本語学習を始めて、1年半を過ぎた頃、
「暴発」と言われる言語能力噴火現象が観測されたという。
日本語をはじめて、1年半後のある日、突然暴発したという…？
卒業したら「中学校」はどうするんですか？と、当たり前前の質問を試してみた。
もう、準備が始まっています…とウインクが返ってきた——。

オーストラリアから帰国してみると、

日本国では週1時間英語の授業を、増やすの減らすので、すったもんだし、
おまけに教科書会社からの「ワイロ事件」、さらにおまけの「天下り事件」も登場し、
イジメと自殺のニュースは毎日のように新聞記事になっている。
死人が出ているのだから、レストランなら即、営業停止だと思おう。

※教室のドアノブにはこんなシールがはられていた！
英語では LIVE OUTSIDE となっている。
自分のコンフォートゾーンの外へ出よ！
居心地のいいとこでぬくぬくするな——ということ！！
ジョン・ウェブスター校長が自ら制作した。



ところで我輩は、

がん、がん、が~~~~んと3連発をくらい、

「後期高齢者」の健康保険証を手に病院通いが始まった。(2/7)

胃がんと前立腺がん、そして今度は**肺がん**

カウント9ぐらいで、立ち上がって、

レフリーにファイティングポーズを見せたい!

今日のところは、タオルを頭からかぶって

「明日のジョー」みたいなポーズでサウナ風呂のコーナーに座っている。

「ナメクナヨ!」——と、小さくつぶやいてみたら…、ゴエモンが笑った。

気のせいだろうー。

肺がんと言えば、タバコ。

我輩も25年ぐらい前まではヘビースモーカー。

簡単に止められないのは百も承知。

タバコは消極的自殺という説明も聞いていた。

日本のリーダーと言われる人は皆、このことを承知しているが、

あまり口に出しては言わない。

言ったところで何の役にもたたない——と考えるのことはだろうか?

止められないのを知っているのだ。

初めて口に出したのは、星野リゾートの若い社長ぐらいだ…と思う。

喫煙者は一切採用しないとキツパリ発言。

大切な番頭さんを失ったのがキツカケだという。

僕もタバコで大切な人をずいぶん失っているが、まず口に出すことはない。

「一日10回は禁煙する!」——と言う天才、養老孟司は、

厚生省がよくも、まあ時間と金をかけて、間接喫煙と肺がんの関係を証明したもんだ——

と変に感心していた!!

科学的証明は非常にやっかいだと言う。

わかっているが因果関係を証明することが困難なことが世の中にはたくさんある。

「日本人と英語」の関係も、非常に興味深い因果関係が複雑にからみあっている。

わかっちゃいるけどやめられない——という植木等の名曲を口ずさみながら

今日も又、考えている75歳だ。

※日本に帰り、ドアを開けると黒にんにくがドツサリ届いていた。

バースデーカードも僕が読めない世界の言語で、届いている。くわばらくわばら。

※帰国し、風呂に飛び込み、窓を開け、冬の冷たい空気を胸いっぱい吸い込むと、

スーッと気持ちがよくて、病気がほとんど治っちゃいました!

